

healthycolumn
健康コラム
保健 医療 介護 福祉

●飯南病院 ☎72-0221 ●来島診療所 ☎76-2309 ●保健福祉センター ☎72-1770

飯南病院 動物と感染症
便り



飯南町立飯南病院
医長
文田昌平

今回は動物と感染症のお話をしたいと思います。

皆さんはペットを飼っていますか？私は飼っていませんが、子供のころ、祖母の家に猫がいました。猫なのに犬小屋の中で暮らしていました。子供のころの僕はその猫に遊んでほしくて、犬小屋の前でしつこく騒ぎ、よくひっかかれたことを覚えています。幸運にもその時は特に病気にはなりませんでした。犬や猫、特に猫にかまれることで、さまざまな感染症を引き起こすことがあります。

特にカブノサイトファーガ感染症という病気が、重症化しやすいことで知られています。感染経路は犬や猫からかまれたり、傷口をなめられたりしますが、人から人への感染の報告はありません。潜伏期

間は1~14日とされ発熱、倦怠感、腹痛、吐き気などを前駆症状として重症化した事例が報告されています。死亡に至る事例も報告されています。

ほとんどの犬や猫の口腔内に常在しているといわれ、菌の排除はできないといわれています。日本では1993年から2017年までに93例が報告されていて、うち19例が死亡しています。決して数の多くない感染症ですが、近年は本感染症の認知度の高まりもあり、確認される症例数が増えていると考えられています。

感染予防のためには動物との過度な接触を避け、食べ物の口移しなどはせずかまれたりひっかかれたりしないように注意しましょう。もしかまれたりした場合はたいしたことはないと思わず、よく水で洗い病院を受診するようにしましょう。ペットとの適切な距離を保ち、充実した生活を送ってくださいね。

保健福祉センター
便り

2月の「健康にい〜にゃん週間」が始まります

「健康にい〜にゃん週間」は、生活習慣の見直しを目的とした健康づくりのチャレンジ週間です。本町では、保育所から小・中・高校生、全世代の皆さんが一緒

になって取り組んでいます。ぜひこの機会に普段の生活を振り返ってみましょう。

●期間 2月14日(水)から20日(火)

●今回のテーマ「食事」です。期間中には、町内の子どもたちが歌っている「健康にい〜にゃん週間の歌」が流れます。

【チャレンジカードをつけてみませんか？】

健康にい〜にゃん週間に合わせて、チャレンジカードを配布しています。まずは、血圧や歩数などの測定から、自己管理のきっかけにしてみましょう。チャレンジカードは、役場各支所や町内公民館等に配置しています。チャレンジして下さった人には、い〜にゃんPAYポイントを付与予定です。健康づくりに取り組んで、健康とい〜にゃんPAYポイントを手に入れましょう！



健康にい〜にゃん週間チャレンジカード

問合せ 保健福祉課 ☎72-1770

こんにちは
中山間地域研究
センターです。

木と森を測る

●中山間地域研究センター ☎76-2025

<https://www.pref.shimane.lg.jp/chusankan/>

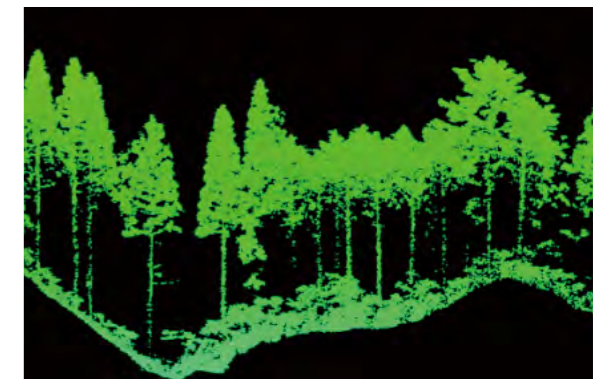


山に携わる人は、木材としての価値を調べるためや、森づくりのためなど、さまざまな目的により「木を測る、森を測る」作業を行っています。

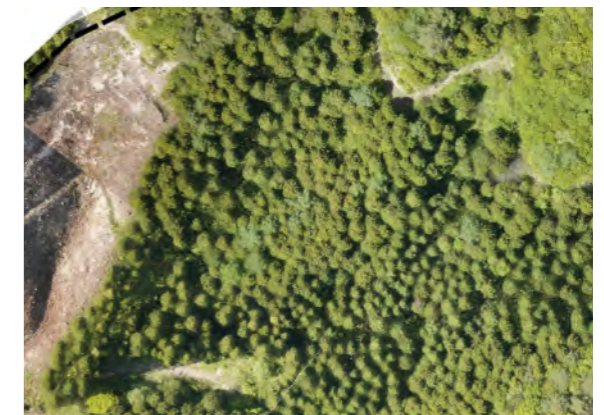
今までは、人が山の中に分け入って木の太さや高さを直接測る、体力的にも労力的にも負担の大きい方法が主流でしたが、昨今は、リモートセンシング(物を触らずに調べる)技術によって測る方法が導入されつつあります。

例えば、ヘリコプターなどからレーザーを飛ばして、木の一本一本の大きさや形状を計測する方法や、上空から木の一本一本の枝葉の広がり具合(樹冠:じゅかん)を写真で撮影して、それを基に森林全体にどのくらいの量の木があるか推測したりする方法があげられます。

当センターでは、飯南町小田地内の和恵島根県有林をフィールドとして、リモートセンシング技術を用いた森林計測手法について、「どんな林分でも正確な計測ができるのか」、従来作業と比較し「どの程度省力化が図られるのか、導入費用も踏まえてコストが縮減できるのか」などの検証・分析・評価を行っています。



レーザー計測で木の形をとらえる



上空から見えるスギの樹冠

住みよいまちへ
集落支援員

赤名地区
集落支援員の
金藤です。

町内5地区で活動する「集落支援員」の活動や地域の取組、地域自慢を紹介します。

赤名連坦地を島根大学生が調査

広報い〜なん11月号でも取り上げられましたが、島根大学による「自動運転サービスを活用した地域の公共交通やまちづくりのあり方に関する研究(国交省×島根大学の共同研究)」で、島根大学教育学部4年生の内田有香さんが赤名連坦地の調査を行っておられます。

内容は「赤名地区(連坦地)まちづくり研究」として、持続可能な赤名地区(連坦地)のあり方について調査。「定住」「交流」「福祉」の現状を把握し、今後のまちづくりをどうすべきかを考察するものです。

内田さんは、令和5年8月より1カ月間、赤名連坦地に滞在。約100世帯を訪問し、暮らしの実態、地域内の人付き合い、自治会活動、後継者の有無など、地域の皆さんと膝を交えて真剣に、親しく交流されながら調査されました。訪問時間30分の予定が、1時間を超える世帯もあり、内田さんの人柄も伺える訪問調査でし

た。訪問調査も後半を迎えるころには、連坦地で内田さんを見かけた方が声を掛けるなど、すっかり人気者になっていました。

11月18日には赤名地区住民に向けて「定住調査ミニ報告会」を開催。内田さんに中間報告をしていただきました。令和6年3月には、「飯南ラボフォーラム」で調査の最終報告も予定されています。住民の皆さんもぜひご来場いただきたいと思っています。



ミニ報告会で住民の皆さんに中間報告



住民の皆さんの話を真剣に聞き取り